

臨床実習

有床義歯補綴学

《担当者名》 教授 / 豊下 祥史 toyosita@ 准教授 / 川西 克弥 kawanisi@
 講師 / 菅 悠希 kanyuuki@ 助教 / 高田 紗理 srtakada@ 助教 / 横関 健治 yokozeki@

【概要】

シミュレーション実習では、部分歯列欠損症例の診察、治療計画の立案、義歯の設計などを理解するとともに、臨床基礎実習で習得した知識・技能との統合を図る。診療参加型臨床実習では、指導医の指導のもと積極的に外来診療に携わり、無歯顎補綴及び部分欠損補綴の典型的な症例から、多くの前処置を要する難症例に至るまで幅広い知識と技能を習得する。さらに、有病高齢者に対する歯科の対応について、実際の現場やより実践に近い環境下において学修し、超高齢社会に対応できる歯科医師としての役割を認識する。

【学修目標】

有床義歯補綴治療のための診察ができ、それに基づいた基本的な義歯設計を適切にする。
 適切なサベイヤ操作および各部品の使用用途を説明する。
 有床義歯補綴治療のための印象採得が適切にする。
 義歯設計に応じた支台歯のプレパレーションを適切に実施する。
 咬合採得と人工歯選択を適切に実施する。
 ろう義歯試適を適切に実施する。
 完成義歯を適切に装着し、義歯の使用上の注意点について説明する。
 義歯装着後の定期検診について説明する。
 義歯修理を適切に実施する。
 リラインを適切に実施する。
 義歯管理及び清掃方法について説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	ガイダンス ・臨床実習の概要説明 ・歯科クリニック外来説明	臨床実習の進め方や注意事項、歯科クリニック外来における見学・介助・自験の方法について説明を受け、これらを理解するとともに、実習に必要な知識の整理と実習器具・器材を準備する。	豊下 祥史 川西 克弥 菅 悠希 高田 紗理 横関 健治
全実習 期間	シミュレーション実習 1. 部分歯列欠損症例に対する診査 2. 部分歯列欠損症例の義歯の設計、治療計画立案 3. 部分歯列欠損症例の支台歯形成 4. 全部床義歯の義歯修理 5. 複製義歯を用いたダイナミック印象 6. 全部床義歯のろう義歯試適 7. リライン	有床義歯補綴治療に先立ち、主訴の同定、問診、視診、触診、聴診、打診による診査事項、X線写真や研究用模型（診断用模型）による診査事項について理解する。 サベイヤを用いてサベイングを行う。基本的な義歯の設計を根拠とともにレポートにまとめる。さらに、一口腔として捉えた治療計画の立案も併せてまとめ、デイスカッションを行う。 義歯の設計に応じた支台歯のプレパレーションを行う。 全部床義歯の破折に対する修理方法について習得する。 複製義歯を用いたダイナミック印象による義歯製作方法について習得し、ろう義歯試適までの流れを理解する。 リラインについて理解する F-1-1)、F-1-2) 、F-2-2) 、F-3-1) 、F-3-2) 、F-3-4)	豊下 祥史 川西 克弥 菅 悠希 高田 紗理 横関 健治
	診療参加型臨床実習	有床義歯補綴治療に関する診療において、見学・介助・自験を通して、ミニマムリクワイアメントを達成する。 G-1-1) 、G-1-2) 、G-2) 、G-3) 、G-4) 、G-5)	豊下 祥史 川西 克弥 菅 悠希 高田 紗理 横関 健治

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	臨床推論 臨床フィードバック講義	有床義歯補綴治療に関する臨床推論ならびに臨床フィードバック講義を行い、高い臨床能力が求められる症例を補完するとともに臨床推論能力を高める。 G-1-1) 、 G-2)	豊下 祥史 川西 克弥 菅 悠希 高田 紗理 横関 健治

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

臨床実習 で課せられた課題とケース数の総合評価（ミニマムリクワイアメントは別途提示）とする。

【教科書】

「スタンダードパーシャルデンチャー補綴学」藍 稔、五十嵐 順正 編 学建書院
「無歯顎補綴治療学」細井 紀雄、大川 周治、平井 敏博、市川 哲雄 編 医歯薬出版
「歯科補綴学専門用語集」日本補綴歯科学会 編 医歯薬出版

【参考書】

「歯学生のパーシャルデンチャー」三谷 春保、小林 義典、赤川 安正 編 医歯薬出版
「パーシャルデンチャーテクニック」五十嵐 順正、石上 友彦、大久保 力廣、岡崎 定司、馬場 一美、横山 敦郎 編 医歯薬出版
「老年歯科医学」森戸 光彦、山根 源之、桜井 薫、羽村 章、下山 和弘、柿木 保明 編 医歯薬出版
「部分床義歯補綴学実習」北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系咬合再建補綴学分野 編
「全部床義歯補綴学実習」北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系咬合再建補綴学分野 編

【学修の準備】

自験、介助、見学を行う症例について、その内容をインストラクターから事前に確認し、その症例に関わる内容を復習する。
(80分)

自験、介助、見学後は電子ポートフォリオを作成すること。(80分)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。(専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力)

DP 2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。(総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェSSIONナリズム、コミュニケーション能力)

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。(科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢)

DP 4. 多職種(保健、医療、福祉、介護)と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。(多職種連携能力)

DP 5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。(社会における医療の役割の理解)

【実務経験】

豊下祥史(歯科医師)、川西克弥(歯科医師)、菅 悠希(歯科医師)、高田紗理(歯科医師)、横関健治(歯科医師)

【実務経験を活かした教育内容】

臨床実習 において、歯科医師としての実務を通じて、無歯顎者や部分無歯顎者に対する治療についての知識、技能、態度を学習者が修得する教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している